



“ぎまままに”川柳

今月のお題

甘い

あの人のお返し見据え
選ぶ義理 本命は秘密

別腹へ ちゃっかり入る
甘いもの 月丘夢子

ジジババは 子らにはからく
孫には甘く ラン

孫が来た 甘いほほえみ
抱きしめた 服部ハツ義

なぜ厳し 子にも孫にも
甘くしてほしい夫

もう食べぬ スイーツあるよ
いただきます リトルカレー

この世では 甘い言葉に
惑わされ ジョージ

甘えん坊 ママの背中で
アメねぶり 足立 昌代

■応募方法
 住所・氏名またはペンネームを明記し、直接または郵送、Eメールで広報広聴係へ。
 〒509-5192 (住所不要) ☐ koho@city.toki.lg.jp
 ☎ 1111 (内線185) / FAX 7763
 ※応募多数の場合は採用されないことがあります。

3月1日号の投稿募集
 お題は「くしゃみ」です (1人1句)。
 締め切りは2月15日(金)です。

わたしの
ほやねさん

「ほやねさん」とは…
 つらいときや悩んだとき、そっと寄り添って「ほやね、ほやね」と話を聞いて、心を支えてくれる人

長男が幼稚園に入園し、一息ついた頃、長女と2人で土岐津町にある「杏カフェ」に通うようになりました。長女は、おもちゃや塗り絵を楽しみながら、私のささやかなご褒美の時間に付き合ってくれました。しばらくして次女も生まれ、3人育児の大変さや長女との関係に悩んでいた私は、気が付くとその胸の内を店長に話していました。すると、店長が「カウンターの奥でいつも2人のおしゃべりを聞いています。すてきなやりとりだなんて思っていましたよ。大丈夫」と言ってくれました。私はその言葉を胸に「もうちょっと頑張ってみよう」と店を出たことを思い出します。

先日、1カ月ほど店が休業となり、私の心にはぽっかりと穴が開いたよう。あの元気な声、すてきな笑顔、子どもに向けられる優しいまなざしに「ああ、私は店長から元気をもらいに杏カフェに行っていたのだな」ということを実感しました。

6歳、4歳、2歳の子どもたちに鍛えられ、妥協も手抜きも身に付いて私も強くなりました。それでもやっぱり店長の笑顔に会いたくて、「今週こそ杏カフェに行くぞ〜」と日々の予定をこなしています。

私のほやねさん、アイスティーと共に今日もとびきりの癒やしの時間をありがとう。

ペンネーム モーニング娘 (肥田町)



ほやねさんから一言
 子育てに正解はありません。子どもを愛しているから悩むのです。どうせなら楽しく悩みましょう。そして子どもと一緒に笑いましょう。
 杏カフェ 店長 渡部晴美さん

募集

掲載の「わたしのほやねさん」ストーリーの他、市内に実在する「まちのほやねさん」を募集します。あなたがこれまでに出会ったほやねさんを400字程度の紹介文と一緒にお寄せください。

■応募方法
 住所・氏名またはペンネーム・電話番号を明記し、直接または郵送、Eメールでまちづくり推進課へ。
 〒509-5192 (住所不要) ☐ machisui@city.toki.lg.jp
 ☎ 1111 (内線186) / FAX 7763